

平成24年度 二宮町ごみ減量化推進協議会 会議録

日 時：平成24年8月8日(水)

午後2時～午後3時30分

場 所：二宮町役場2階 公室

出席者：平田委員 / 工藤委員 / 浅田委員 / 大矢委員 / 山田委員 / 西川委員

坂本町長 / 長尾町民生活部長

事務局：筑紫生活環境課長 / 須田生活環境班長 / 雨宮主事補

傍聴者：なし

1. 開会

2. あいさつ

3. 委員の委嘱について

- ・委員の委嘱
- ・委員自己紹介
- ・職員自己紹介

4. 議題

- (1) 会長、副会長の選出
- (2) 二宮町の廃棄物処理の現状について
- (3) ごみの減量化について
- (4) 今後のスケジュールについて
- (5) その他

(1) 会長、副会長の選出

- ・会長、副会長選出
- ・会長により議事進行

(2) 二宮町の廃棄物処理の現状について

『資料1-1、資料1-2、資料1-3、二宮町の廃棄物の処理の現状について（パワーポイント）説明』

【意見・質問等】

委員：パワーポイントの映像の中で、未分別のごみ袋の中身を分別していましたが、これを子どもたちの前で行って、分別の大切さを教えてはいかがでしょうか？

事務局：ごみの分別は、小学校4年生の総合学習の時間に町職員が子どもたちに教えています。また先程の映像の中で、昨年のごみの量が一昨年より4t増えてしまったという話がありましたが、増えてしまったのは昨年が閏年です、例年より1日多いためだと思います。今二宮のごみの量は、1日だけで上下してしまうシビアな所までできています。これからごみの減量化を進めていくのは至難の業ですから、ごみの減量化について真剣に考えていかないとはいけません。

委員：PETは、収集しているのはペットボトルだけですか？

事務局：そうです。

委員：コンビニ弁当の容器には結構PETでできている物もありますが、それはその他の樹脂ですか？

事務局：その他の樹脂です。今度からそれを、PET樹脂がついているものはPET樹脂だけで集めまして、それが容器包装リサイクル法という法律に則って処理ができるという形になります。

委員：PPやPSなども、マークのとおりPETとしてリサイクルできたら良いと思います。

事務局：現状として難しいのは製品プラスチックです。現在は、その他樹脂としてRPFにできているのですが、容器包装リサイクル制度に移行すると製品プラスチックの処理先がなくなってしまいます。広域化すれば平塚で不燃ごみとして処理できます。それができるようになるのが平成27年ですので、それを機に容器包装リサイクル制度に移行していこうと考えています。

委員：PSはPSで別個に回収されるのですか？

事務局：そこまでの分別になるかはまだ分かりません。今後ごみ処理広域化の話し合いの中で決めていきたいと思っています。

### (3) ごみの減量化について

『二宮町第二次環境基本計画概要版、一般廃棄物処理基本計画概要版、二宮町一般廃棄物処理基本計画について説明』

#### 【意見・質問等】

- 委員：コンポストを使って出来た堆肥を、庭に繰り返し埋めることにより、土壌の改善ができるということで始めましたが、不安に思っているのは、出来た堆肥を埋める場所がいつか限度が来るのではないかという事です。また、夏になると臭いが気になります。そういった事を考えると、これからずっと続けて行けるのかと不安に思います。
- 会長：有機の会で、年間で1 t程のEMボカシ、発酵促進剤を作っており、町と共同で簡単にボカシ、堆肥を作るような仕組みを説明会で行ったりしていますが、そういった観点で考えたことはなかったです。
- 委員：話を聞いた時は、すごく簡単だと思ったのですが、掘り返して埋めて、また掘るのは結構大変な作業です。庭が広くないので、少しずつ埋める場所をずらして入れていくのですが、そんなに簡単にはいかないのだなと思いました。
- 委員：しかし、出来た土は本当にサラサラになってきれいです。ただ夏場になってくると相当土を掛けておかないと臭いが気になります。
- 委員：コンポストに生ごみを入れる時に、フタ開けた時点で結構臭いがします。
- 委員：私はEM菌を使っています。私は生ごみを入れてEM菌をかけるだけなので、堆肥化なんて考えたことなかったです。夏場の時は生ごみをコンポストの中に入れて、その上に草を入れて、EM菌をかけるだけです。
- 会長：生ごみの水分率は80パーセントです。水分が多すぎると発酵するより前に腐ってしまうということがありますので、できるだけ水分を少なくします。それでボカシを使ったりすると腐らずにうまく発酵してくれます。水分の調整剤として落ち葉を入れると丁度60パーセントぐらいの水分になり、うまく発酵します。その辺りの気配りが多少面倒くさいです。
- 委員：団地の方や庭がない方でもできる方法が欲しいです。ダンボールで出来た生ごみ処理機もありますが、結果はどうなのでしょう？
- 事務局：これが一番良いという方法はなかなかないです。それぞれの良い所と悪い所がありますから、ご自身に合った物を選んでいただければ良いです。町の生ゴミ処理機補助金の対象をそういった物にまで広げていければ良いと考えています。広げるのは良いが、作った堆肥が余りだしたらどうしようというのは、一つの大きな問題です。対策として、地域循環に繋がる施策を検討しています。
- 会長：町内で団体・サークル等が、堆肥化や循環型の工夫をしているというのを、町として吸い上げたりはしていますか？

事務局：団体は有機の会様くらいしかありません。町が補助金を出した方に対しては、アンケートをとっています。しかし、出来た堆肥を消化できているかのデータは持っていません。堆肥が余ってしまった場合にどこかでそれを次に繋げる方法を作っていないと、いくら生ごみ処理機を普及させても、どこかで止まってしまうのだろうと考えています。

会 長：高山村に行った際に、高山村地力増進施設という施設がありました。作った堆肥を畑に入れて地力を向上させ、そこで作ったりんごですよということで、りんごのブランド力を高めるための一つのアピールにもなっているらしいです。高山村ではかなり良い循環ができている感じがします。個人の小さい庭でやるとなると少し限界があるかもしれないですが、もう少し町のレベルでそういった農業をやっている方々ですとか大量に使うような所と連携をとっていただければ、余計な心配をする事もなくなると思います。

事務局：その辺の制度を確立していかなければならないと思っています。

事務局：補助を出した後のフォローも必要だと思いました。また、堆肥にしないでやっていくということも、1つの減量化の施策の一つだと思いますので、そういったそれぞれに合ったやり方があると思いました。そのようなことを次回以降に、皆さんで詰めていっていただいて、町にご提案していただければと思います。

#### (4) 今後のスケジュールについて

・第2回 10月24日(水)午前

#### (5) その他

事務局：水切りネットについてですが、今年度も実施を予定しております。数量は、39,000弱で、予算の範囲内で出来る限りやっというと考えています。10月くらいに始める予定です。昨年度、お話いただいたとおり生分解性ということで進めていきたいと思います。また、ごみ袋の仕様の変更についてですが、ロール式から平袋方式に変更ということで、8月10日発行の広報誌でお知らせする予定です。9月から順次変わっていきます。

会 長：2, 3枚取れてしまわないですか？

事務局：一枚ずつ取れるようになっています。

委 員：色は何色ですか？

事務局：色は今まで通り紫です。

事務局：9月広報の本紙に掲載する予定ですが、10月から廃食用油の分別収集を開始いた

します。以前からもお話をいただいているとおり、毎日出るごみと同じ日に出していただく形です。

会 長：これで今日の議題は全て終了となります。それでは会議を閉会させていただきます。ありがとうございました。

## 5. 閉会